

施策評価シート

施策等名称	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実	体系番号	0201020401
		主管課	文化財課

1 施策基本情報

現状と課題	茅野市には尖石遺跡、上之段遺跡、駒形遺跡の三つの縄文時代の国史跡があります。また、国宝「土偶」(仮面の女神)が出土し縄文公園として整備された中っ原遺跡があります。これらの保存された遺跡を保護・保全し、まちづくり・人づくりの核として整備・活用の充実を図ることが必要です。
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	国特別史跡尖石遺跡、国史跡上之段遺跡、国史跡駒形遺跡を、各史跡の特性に基づき整備し、「縄文の里」の基礎を整えます。 縄文史跡・歴史的な遺産をまちづくり・人づくりにいかし、個性・独自性ある地域社会や観光の創出を推進し、地域の歴史・文化・自然を守り伝える語り手・担い手の育成を図ります。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2027年度目標値	
①	尖石遺跡試掘調査率	試掘調査面積/国特別史跡指定面積(%)	10.00	12.50	15.00
				66.00	90.00
				6.00	8.00
②	上之段遺跡詳細分布調査率	詳細分布調査面積/国史跡指定面積(%)	42.00	66.00	90.00
				6.00	8.00
③	駒形遺跡試掘調査率	試掘調査面積/国史跡指定面積(%)	4.00	6.00	8.00
				6.00	8.00

施策の柱	名称	尖石遺跡の保全と維持管理の充実		主管課	文化財課			
		詳細	尖石縄文考古館を中心に、縄文文化を体感できる場、学習の場として、史跡公園の整備と活用を進めます。					
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	試掘調査率	試掘調査面積/国特別史跡指定面積(%)	10.00	12.50	1 尖石史跡公園整備事業	実施	
					15.00	2 尖石遺跡谷部確認調査事業費	実施	
		3	3					
		4	4					
		5	5					
		6	6					
	基本政策間連携							
	施策の体系	名称	上之段遺跡の保全と維持管理の充実		主管課	文化財課		
			詳細	詳細分布調査を進め、遺跡の状況把握に努めると共に、史跡の保全に万全を期します。				
		まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
		1	詳細分布調査率	詳細分布調査面積/国史跡指定面積(%)	42.00	66.00	1 縄文の里史跡整備活用事業	実施
						90.00	2	
3			3					
4			4					
5			5					
6			6					
基本政策間連携								
施策の柱		名称	駒形遺跡の保全と維持管理の充実		主管課	文化財課		
			詳細	試掘調査を進め、遺跡の実態把握に努めると共に、史跡の保全に万全を期します。				
		まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分
		1	試掘調査率	試掘調査面積/国史跡指定面積(%)	4.00	6.00	1 縄文の里史跡整備活用事業	実施
						8.00	2	
	3		3					
	4		4					
	5		5					
	6		6					
	基本政策間連携							

施策評価シート

施策等名称	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実	体系番号	0201020401
		主管課	文化財課

※施策の柱が4つ以上ある場合は下記へ記載

施策の体系	施策の柱 4	名称	中ッ原遺跡の保全と維持管理の充実			主管課	文化財課	
		詳細	中ッ原遺跡の適正な維持管理や整備に努め、利用者の快適な公園利用を図ります。					
		まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
		1	公園水道利用数	水道利用量(m ³)	18.00	22.50 27.00	1 縄文の里史跡整備活用事業	実施
		2				2		
		3				3		
						4		
						5		
						6		
	基本政策間連携							
	施策の柱 5		名称				主管課	
			詳細					
まちづくりの目標指標			指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
1							1	
		2				2		
		3				3		
						4		
						5		
						6		
基本政策間連携								
施策の柱 6			名称				主管課	
			詳細					
	まちづくりの目標指標		指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値 2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1						1	
		2				2		
		3				3		
						4		
						5		
						6		
	基本政策間連携							

施策等名称	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実	体系番号	0201020401
		主管課	文化財課

2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	尖石遺跡試掘調査率	10.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		1	12.50	40.00	40.00	40.00	40.00
変動要因等	2018年度	本年度実施の本事業は、特別史跡範囲確定のための史跡外地の調査であり試掘調査率へ反映する調査ではない。(2018:863㎡)					
	2019年度	特別史跡に含まれる与助尾根遺跡で、斜面崩落に伴いき損の危険性がある遺構の確認調査等を実施した。微増であるが、確実に調査率は上がっている(2019:150㎡)。					
	2020年度	調査なし。					
	2021年度	特別史跡に含まれる尖石遺跡と与助尾根遺跡に挟まれた谷部で、令和4年度実施予定の与助尾根台地保護盛土工事に先立ち確認調査を実施した。微増であるが、確実に調査率は上がっている(2021:45㎡)。					
	2022年度	特別史跡 尖石石器時代遺跡の範囲の広がりを確認するため、尖石遺跡の西側の調査を行った。この事業は特別史跡範囲確定のための史跡外地の調査であり試掘調査率へ反映する調査ではない。(2022:1200㎡)					
施策	上之段遺跡詳細分布調査率	42.00	48.00	49.00	49.00	49.00	49.50
		2	66.00	72.73	74.24	74.24	74.24
変動要因等	2018年度	平成29年度(2017年度)の調査率に対し3%の微増であるが、確実に調査率は上がっている。					
	2019年度	平成30年度(2018年度)の調査率に対し1%の微増であるが、確実に調査率は上がっている。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴い未実施。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴い未実施。					
	2022年度	令和元年度(2019年度)の調査率に対し0.5%の微増であるが、確実に調査率は上がっている。					
施策	駒形遺跡試掘調査率	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
		3	6.00	66.67	66.67	66.67	66.67
変動要因等	2018年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2019年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2020年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2021年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2022年度	当面、試掘調査は予定していない。					
柱1	試掘調査率	10.00	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00
		1	12.50	40.00	40.00	40.00	40.00
変動要因等	2018年度	本年度実施の本事業は、特別史跡範囲確定のための史跡外地の調査であり試掘調査率へ反映する調査ではない(2018:863㎡)。					
	2019年度	特別史跡に含まれる与助尾根遺跡で、斜面崩落に伴いき損の危険性がある遺構の確認調査等を実施した。微増であるが、確実に調査率は上がっている(2019:150㎡)。					
	2020年度	調査なし。					
	2021年度	特別史跡に含まれる尖石遺跡と与助尾根遺跡に挟まれた谷部で、令和4年度実施予定の与助尾根台地保護盛土工事に先立ち確認調査を実施した。微増であるが、確実に調査率は上がっている(2021:45㎡)。					
	2022年度	特別史跡 尖石石器時代遺跡の範囲の広がりを確認するため、尖石遺跡の西側の調査を行った。この事業は特別史跡範囲確定のための史跡外地の調査であり試掘調査率へ反映する調査ではない。(2022:1200㎡)					
柱2	詳細分布調査率	42.00	48.00	49.00	49.00	49.00	49.50
		1	66.00	72.73	74.24	74.24	74.24
変動要因等	2018年度	平成29年度(2017年度)の調査面積に対し1%の微増であるが、確実に調査率は上がっている。					
	2019年度	平成30年度(2018年度)の調査率に対し1%の微増であるが、確実に調査率は上がっている。					
	2020年度	新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴い未実施。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の感染防止に伴い未実施。					
	2022年度	令和元年度(2019年度)の調査率に対し0.5%の微増であるが、確実に調査率は上がっている。					
柱3	試掘調査率	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
		1	6.00	66.67	66.67	66.67	66.67
変動要因等	2018年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2019年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2020年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2021年度	当面、試掘調査は予定していない。					
	2022年度	当面、試掘調査は予定していない。					

施策等名称	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実	体系番号	0201020401
		所管課	文化財課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
柱4 1	公園水道利用数	18.00	16.00	16.00	21.00	18.00	17.00
		22.50	71.11	71.11	93.33	80.00	75.56
変動要因等	2018年度	昨今の縄文ブームから公園利用者数の激減は考えにくく、お手洗いを使用しない利用が多かったのではないかとと思われる。					
	2019年度	昨今の縄文ブームから公園利用者数の激減は考えにくく、お手洗いを使用しない利用が多かったのではないかとと思われる。					
	2020年度	観光客の見学や市民の憩いの場として、利活用が活発であったと考えられる。					
	2021年度	新型コロナウイルス感染症の影響により観光客の利用が低調であったと考えられる。					
	2022年度	昨今の縄文ブームから公園利用者数の激減は考えにくく、お手洗いを使用しない利用が多かったのではないかとと思われる。					

施策等名称	史跡保存された縄文遺跡の保護の充実	体系番号	0201020401	
		主管課	文化財課	

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)		2019年 (前年度比)		2020年 (前年度比)		2021年 (前年度比)		2022年 (前年度比)		
投資額	事業費(円)	8,749,554		6,097,742	0.70	5,750,924	0.94	67,754,517	11.78	15,584,189	0.23	
	うち一財(円)	8,749,554		5,166,742	0.59	5,750,924	1.11	13,104,517	2.28	9,776,189	0.75	
	増減理由 (一般財源前年度比±10%以上の場合に記載)			人力による掘削を基本とする史跡内の小規模な確認調査の実施、及び整備基本計画策定の繰越しに伴い減額となった。		尖石遺跡第2期整備基本計画書の発行など、整備に関わる国庫補助事業でない新たな事業を実施したため。		尖石遺跡の第2期整備関連事業、追加指定地等買上げ、尖石遺跡総括報作成、尖石谷部確認調査など新たな事業を実施したため。		尖石遺跡の第2期整備関連事業、追加指定地等買上げ、尖石遺跡総括報作成、石谷部確認調査等の事業がなかったため。		
進捗評価		おおむね順調		やや遅れている		おおむね順調		おおむね順調		おおむね順調		
総合評価	主な取組内容や成果	尖石遺跡では、遺跡範囲確認調査の実施、総括報告書の作成、第2期史跡整備計画の策定、史跡整備有識者会議の開催等に取り組んだ。上之段遺跡では、平成20年度から継続中の詳細分布調査を小学校児童と共に実施した。縄文を意識したまちづくり・人づくりが着実に進んでいる。		与助尾根遺跡南斜面の崩落に伴うき損の恐れがある遺構の確認調査、総括報告書の作成、史跡整備有識者会議の開催等を行なった。第2期史跡整備計画の策定は、国(文化庁)との協議に不測の日数を要し、次年度に繰越となった。小学校児童と上之段遺跡の詳細分布調査を実施した。		尖石遺跡では、水場とみられる2か所の低地が追加指定を受け、第2期整備基本計画が策定された。また、次年度に刊行をめざす総括報告書の作成も順調に進んでいる。上之段遺跡で予定した児童との詳細分布調査は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となった。		尖石遺跡の第2期整備(サイン多言語化、支障木伐採)、追加指定地等買上げ、尖石遺跡総括報作成、尖石谷部確認などの予定した事業を滞りなく実施した。上之段遺跡で予定した児童との詳細分布調査は、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止となった。		(R4・総括評価共通)尖石遺跡の第2期整備(支障木伐採、台地斜面保護盛土等の環境整備)、尖石遺跡西側民有地の確認調査の予定した事業を滞りなく実施した。上之段遺跡での児童との詳細分布調査も予定どおり実施した。		
	課題	遺跡の内容が概ね把握され、史跡整備された尖石遺跡に対し、上之段遺跡と駒形遺跡は遺跡の内容に不明な点が多いため、直ちに整備に移行することができない。尖石遺跡の第2期史跡整備と並行して、上之段遺跡の詳細分布調査、駒形遺跡の試掘調査を進めなくてはならない。		今後、尖石遺跡の第2期史跡整備(2021～2030)、上之段遺跡の詳細分布調査、駒形遺跡の確認調査を同時に進めていくこととなるが、地域住民並びに文化庁から駒形遺跡の整備が求められている。史跡整備係を新設するなどして、保護体制の充実を図る必要がある。		上之段遺跡と駒形遺跡は、尖石遺跡と共に縄文を意識したまちづくりの核となる大切な遺跡であるが、整備の根拠となる確認調査が実施できていない。		上之段遺跡と駒形遺跡は、尖石遺跡と共に縄文を意識したまちづくりの核となる大切な遺跡であるが、整備の根拠となる確認調査が実施できていない。		(R4・総括評価共通)上之段遺跡と駒形遺跡は、尖石遺跡と共に縄文を意識したまちづくりの核となる大切な遺跡であるが、整備の根拠となる確認調査が実施できていない。		
改革・改善	改革・改善内容	これまで国指定史跡の整備・活用に関わる文化庁協議は個別に行われてきた。これからは「縄文の里史跡整備基本計画」に位置づけた史跡の特性をいかに整備・活用の方法を探ると共に、「縄文の里」を意識した面的な整備・活用を視野に入れ協議を行なっていく。		尖石遺跡の第2期整備と併行し、駒形遺跡の確認調査と上之段遺跡の詳細分布調査が進められるよう、体制を整え「縄文の里」としてバランスの取れた史跡保護を目指す。これらの事業を推進するためには、地域住民との連携が不可欠であるため、史跡保護の理解と協力を求めていく。		尖石遺跡第2期整備と併行しながら、駒形遺跡と上之段遺跡の確認調査を進めることができるよう、史跡整備係を新設するなど抜本的な体制の見直しを行い、「縄文の里」としてバランスの取れた史跡の保護を目指す。		尖石遺跡第2期整備と併行しながら、駒形遺跡と上之段遺跡の確認調査を進めることが必要で、史跡整備係を新設するなど抜本的な体制の見直しを行い、「縄文の里」としてバランスの取れた史跡の保存と活用を目指す。		尖石遺跡第2期整備と併行しながら、駒形遺跡と上之段遺跡の確認調査を進めることが必要で、史跡整備係を新設するなど抜本的な体制の見直しを行い、「縄文の里」としてバランスの取れた史跡の保存と活用を目指す。		
	施策の柱等の重点化	重点化する施策の柱	1		1		1		1		1	
		重点事務事業	1		1		1		1		1	
理由	尖石遺跡の史跡公園は、隣接する尖石縄文考古館と共に、縄文を意識したまちづくりの推進拠点である。遺跡の保全と、第2期整備計画による史跡公園と周辺環境の整備を進め、「縄文の里史跡整備活用基本計画」の基盤を整えていく。		尖石遺跡の史跡公園は、隣接する尖石縄文考古館と共に縄文プロジェクトの推進拠点である。保存管理計画と史跡整備基本計画に従い、追加指定による遺跡の保護、整備による史跡の保全を図り、「縄文の里史跡整備活用基本計画」の基盤を整える。		尖石遺跡の史跡公園は、隣接する尖石縄文考古館と共に縄文を意識したまちづくりの推進拠点である。第2期整備基本計画に従い、20年後の史跡のあるべき姿を目指し、着実に予定する事業を遂行していく。		尖石遺跡の史跡公園は、隣接する尖石縄文考古館と共に縄文を意識したまちづくりの推進拠点である。文化庁指導のもと、第2期整備基本計画に従い、20年後の史跡のあるべき姿を目指し、着実に計画した事業を遂行する。		尖石遺跡の史跡公園は、隣接する尖石縄文考古館と共に縄文を意識したまちづくりの推進拠点である。文化庁指導のもと、第2期整備基本計画に従い、20年後の史跡のあるべき姿を目指し、着実に計画した事業を遂行する。			